

環境ニュースレター 秋号

Vol.61



発行者 NPO 法人 環境21の会 理事長 松本 弘
 明石市松が丘2丁目2-6
 明舞第2センタービル2階 明舞まちづくり交流拠点内
 Eメール: kankyo21@zeus.eonet.ne.jp
<http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21noka>
 発行: 春・秋・年2回

特定非営利活動法人 **環境21の会**

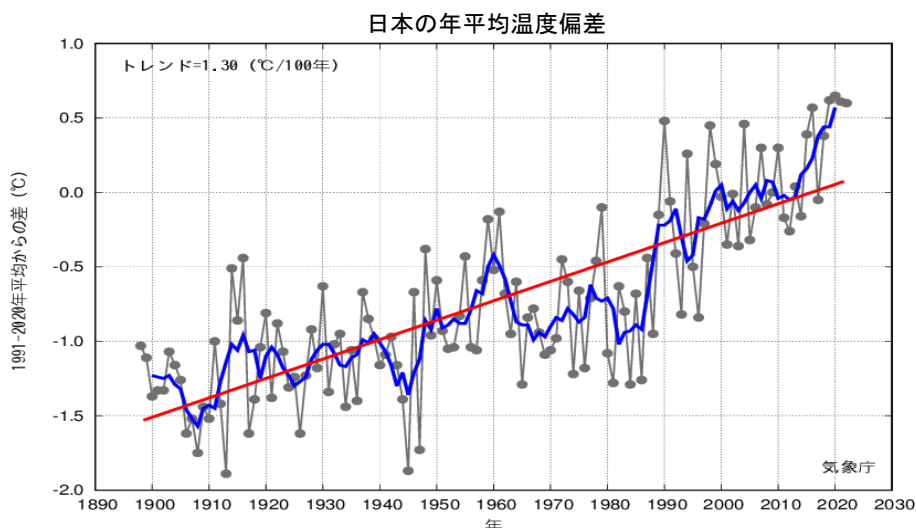
「地球温暖化や異常気象を身近なデータで認識し、対策行動を！」

理事 大石末雄

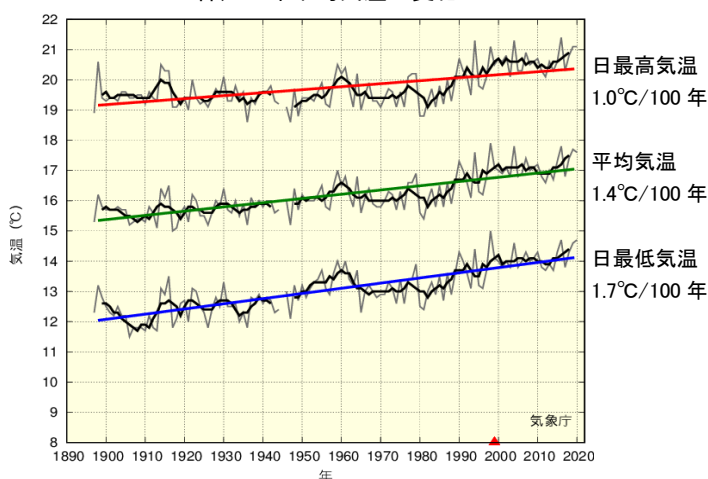
近年想定外の豪雨・洪水・竜巻・山火事など甚大な自然災害が世界各地で起こっているニュースが頻繁に報じられるようになり、天気予報は異常気象の記録更新を毎日のように報じている。

地球温暖化防止活動推進員研修会などで地球の平均気温が0.85℃上昇。温暖化原因は大気中 CO2 増加、CO2 削減を盛んに広報しているが、一般市民は平均気温が0.85℃上昇に「笛吹けど踊らず」で緊迫感が希薄に思われる。

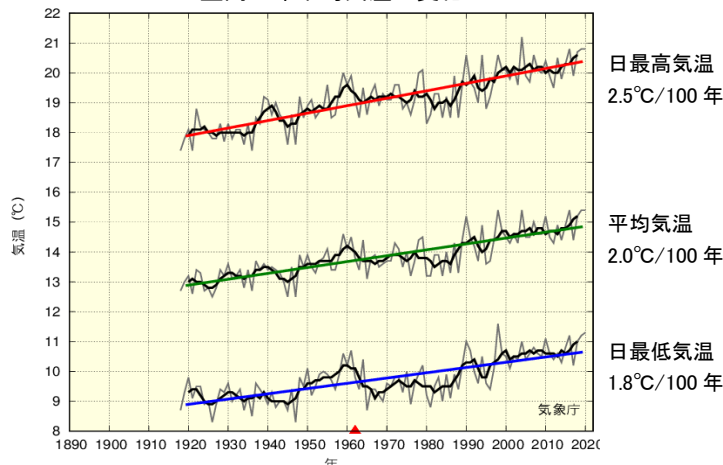
そこで、気象庁ホームページから気象データグラフ(日本平均気温 1.3℃、神戸平均気温 1.4℃、豊岡平均気温 2.0℃上昇)を兵庫県民対象に掲載することで個々人が身近な問題と認識し、地球温暖化対策行動することに期待したい。



神戸の年平均気温の変化



豊岡の年平均気温の変化



先人の功罪による経年異常気象激化は一朝一夕では改善できないことを理解し、省エネ行動を小さなことからコツコツと「千里の道も一歩から」で、自分事として地道な継続行動に期待します。

令和5年4月～令和5年9月活動実績

1. 西宮市宮水ジュニア 前期(6月～10月)上甲子園公民館で通常開催。受講生を20名で実施された。最終回10月7日は風車を作って発電実験を行う。後期(11月～来年3月)は鳴尾東公民館で実施予定。
6月24日 「地球温暖化と省エネ」を学習し、照明器具や電気製品の待機電力など省エネ実験。
7月22日 「自然エネルギー・太陽光発電」を学習し、太陽光発電による電子オルゴールを工作。
8月26日 「ケナフの光合成とCO2削減」を学習して、ケナフ材によるストラップとケナフ鞆皮でコースター工作。
9月 9日 「太陽光と紫外線」を学び、紫外線防御品遮蔽実験、紙コップで分光器を作り虹の観測。
9月30日 「森のはたらきと炭の効用」を学習し、七輪炭火でケナフ炭を作り、餅を焼き、ぜんざいで食した。



2. 播磨町中央公民館 いきいき体験隊 (ダンロップ環境教室)

新型コロナ対策で休講していたが、今年度(5月～来年3月)全8回開講、受講生各20名で再開された。

- 5月14日 「地球温暖化と省エネ」を学習し、照明器具や電気製品の待機電力など省エネ実験。
6月11日 「自然エネルギー・太陽光発電」を学習し、太陽光発電による電子オルゴールを工作。
7月 9日 「ケナフの光合成とCO2削減」を学習して、ケナフ材によるストラップとケナフ鞆皮でコースター工作。
9月 3日 「太陽光と紫外線」を学び、紫外線防御品遮蔽実験、紙コップで分光器を作り虹の観測。

3. ひょうご環境創造協会 出前環境教室「おもしろ科学教室」

- 7月27日 道場児童館 「地球温暖化と太陽光」を学び、太陽光発電による電子オルゴールを工作。
8月20日 稲美町野外活動センター「ガールスカウト親子で、自然エネルギー」を学び、エコクッキング体験。



4. まちの寺子屋(淡路分校)

- 4月20日 ケナフ種まき、畑除草
5月12日 ケナフ畑の準備、ケナフ炭材窯入れ
5月28日 ケナフ植草祭
6月23日 ケナフ畑除草



5. その他 環境教室ほか

- 8月 5日 播磨町公民館「親子環境教室」自然エネルギー学習とソーラーオルゴール工作(ダンロップ教室)
8月 7日 播磨町公民館「親子環境教室」海と環境学習、お魚ドーム工作(ダンロップ教室)
8月11日 松が丘交流ゾーン「親子環境教室」段ホール窯でピザ焼きエコクッキング(ダンロップ教室)
8月17日 神戸学院大学実習学生「地球温暖化対策」を学習し、省エネ実験等(明石本校)
8月18日 コーポカルチャー宝塚「自然エネルギー」を学習し、ペットボトルでソーラーカー工作



肩のこらない環境クイズ



私たちの使う水についての質問です。

Q1.私たちの体(体重55kgくらいの人)が1日に必要な水の量はどの位でしょう。

- ①ペットボトル(500cc)1本分、②ペットボトル(500cc)4本分 ③ペットボトル(500cc)10本分

Q2.私たちが1日に使う水の量は、1人当たりどれくらいでしょう。

- ①大きなペットボトル1本、②ポリバケツ1杯分、③お風呂の浴槽1杯分

Q3.現在、海や湖沼の汚れの最大の原因は？

- ①工場から出る産業廃棄物、②さかなや昆布などの死骸、③家庭から出る生活排水

Q4 台所に流したてんぷら油をスプーン1杯分捨てたら、きれいな水にもどすにはお風呂なんばい分の水が必要でしょうか？

- ①1. 5杯分、②3. 3杯分、③10. 6杯分

Q5.地球の温度を上げてしまう温室効果ガスの中で量が一番多く、私たちの生活に「一番近いものはどれでしょう？

- ①フロン、②亜酸化窒素、③二酸化炭素

解答は4ページにあります。

★ 明石の歴史

塩野 勝

明石には、人類の起源が保存されている。明石原人と呼ばれるものである。

1931年兵庫県明石郡大久保村の海岸で、長さ20cmほど人骨が発見され、発見したのは29歳のアマチュア研究員の直良信夫で、彼は結核の転地療養で周辺の明石で暮らしていたが、安静にするどころか周辺の歴史跡に毎日のように跡や貝塚などへ鍬を担いで出かけて掘って回っていた。西八木海岸はそのころには毎日のように通っていた場所である。

昭和6年4月18日、前夜の強風によって崩れ落ちた地層を探していた直良は、「何か」を素早く見つけた。スコップで掘り起こし波打ち際に駆け寄り洗ったところ、それが化石化した人の腰の骨であると確信した。

彼は自宅から東京や京都の大学の学者に更新世の人の骨らしきものを発見したと手紙を送付、返信のあった東京帝国大学人類学教室の松村瞭に鑑定を依頼して骨を送った。

松村は、すぐに骨は間違いなく人類の寛骨で16〜17歳のもの。化石の程度や色から太古のものだろう。という内容の手紙を直良に送ったが、ひと月ほどして比較対象が少ないのでなんととも言えない。」と人骨を直良に送り返してきた。

次号に続く



明石原人 寛骨(複製)
明石市立文化博物館展示

鳥たちの地球温暖化

我が家の庭先の樹木に鳩が巣づくりして、このほど2羽のひなが誕生しました。鳩がこのように樹木に巣づくりして子育てするのは珍しいそうです。軒先から僅か2〜3m離れた場所です。

鳩の巣作りは人気のない家の軒先とか、高架下、ビルの屋上 など風雨を避けた、外敵が近寄りやすい場所に作るそうです。8月の初め頃、鳩がしきりに樹木に近寄ってきているのを見かけていたのですが、あまり気にしていませんでした。これは巣作りする場所を視察していたのでしょうか。ここは樹木の葉で覆われてはいますが、雨風は当たるし、外敵のカラスなどからも狙われやすいし、まして私たちのすぐ手が届く場所なので危険なことは分かっていたと思われそうですが、巣づくりして卵を産み、親鳥は2週間くらい雨に当たりながらも懸命に卵を抱いていました。鳩は平和のシンボルとして、国から保護されていますが、鳴き声がうるさいとか、糞害などで嫌われています



松本 弘

が、けなげな親鳥の姿にとっても感動し、追い払うことはできませんでした。

鳥たちは、地球温暖化の隠れた被害者と言われています。温暖化が進むにつれて、鳥たちの住処は北上しているようです。この度の鳩の巣作りが、地球温暖化の影響かどうかは分かりませんが、これまでと違った生活環境が鳩たちにもおとずれているのではないのでしょうか。

クイズ解答 Q1:② Q2:③ Q3:③ Q4:② Q5:③

今後の活動スケジュール

令和5年10月～活動予定

10月4日	水	明舞まちづくり 交流拠点	例会・理事会
10月7日	土	上甲子園公民館	宮水ジュニア「たのしい科学体験」風車工作 前期修了
10月22日	日	播磨町中央公民館	いきいき探検隊開講第5回 海の環境と浮沈子工作
11月1日	水	明舞まちづくり 交流拠点	例会・理事会
11月3日 ～10日		明舞まちづくり 交流拠点	明舞まちづくり交流拠点合同展示会
11月11日	土	鳴尾東公民館	宮水ジュニア「たのしい科学体験」後期第1回 開講 省エネ実験
11月19日	日	三木市市民活動 センター	みきボランティアフェスタ 温暖化啓発パネル展示と物づくり体験
11月30日	木	五色町	ケナフ収穫祭
12月3日	日	播磨町中央公民館	いきいき体験隊
12月6日	水	明舞まちづくり 交流拠点	例会・理事会
12月9日	土	播磨町中央公民館	環境教室 クリスマスツリー工作
12月16日	土	鳴尾東公民館	宮水ジュニア「たのしい科学体験」第2回 ソーラーオルゴール工作

【会員随時募集中】

地球温暖化防止活動などに関心がある方、

下記事務局に連絡をお願いします。

〒673-0862 明石市松が丘2丁目2-6(明舞プラザビル2階
明舞まちづくり交流拠点内) NPO法人 環境21の会事務局

電話&FAX: 078-914-5546

Eメール: kankyo21@zeus.eonet.ne.jp

ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~kankyou21nokai>



編集後記

全国に広がる猛暑被害や自然災害はますます厳しくなっています。地球温暖化の危機をみんなで共有して、暮らしに生かすことが大切です。本誌がその願いにご参考になれば幸いです。

本誌はひょうご環境創造協会のご支援の下で発行しております。ご支援に感謝申し上げます。